

日本型ネオ・ファシズム体制づくりに向けた  
中核派を活用した 治安強化の強化＝  
学生自治破壊・学内管理強化



# 反対運動を封じ込め！



No.13  
84.12.5

マルクス主義学生同盟革マル派  
京都大学支部

(06)  
大隅 豊

三里塚を「裏」とした中核派の学生暴行批判  
やで“論理”と現実の反動性をあざへ！

すべての御友語君！

10月9日～11日、おこなわれた京大当局による教養部構内において白昼公然と強行された中核派の政経研への武装襲撃。そして、この中核派の暴行を奸機として活用した京都府警・京大当局による、これまで10・19事件後と同様の学生自治への介入・規制・強圧の策動強化。いわく、「中核派の暴力支配運動、府警・当局の中核派を活用して学生自治破壊運動を進一步進めよう」といふ形で、いわゆる「反対運動」を封じ込める攻撃にいたして「中核派の暴力支配運動、府警・当局の中核派を活用して学生自治破壊粉碎！」の声を、いよいよ今年のすみやかにくりかえされている。この声を因結した力に転化し、ムキ出しどなつた中核派一府警・当局による、内と外、一体となった学生自治破壊攻撃を敢然と打ち碎き、瀕死の京大学生自治運動を戦闘的に止めがえらせるために、いきそとすぐての学生が起ち上がり、いよいよが同盟す訴える。

しかも学友諸君へ、オ二期中農政権のもとで、米日韓三角軍事同盟の強化・軍事大國化と日本型ネオ・ファシズム体制づくりの策謀が一巻に駆けつけている。中核派による反戦闘争破壊、府警・当局の強圧はねかえし、反戦闘争の爆発をつくりだすことなかれがうがうがだ。核空母カーラル・ビンソンの横須賀暴走を暴力で阻止するため、わが京大からも12・9～10横須賀基地周辺に来ましたよ！

ふたたび多くのされた露骨さの武装暴動、これが日本  
核保有か、「三里塚闘争への敵対・襲撃」にたいする「武  
装自衛」だおどかし公然とつづらつづら。此反説書、それが  
にさうした今回の暴動にたいする正当化ならざらに正當化に一  
そ、遂に彼らの暴行の犯罪性と彼らの封ふ「三里塚闘争」な  
るものとの反動的本質があらわにとねりてゐるのだ。

卷之三

『二里塚古戦場としたたか夜の氣力支配

「これがわたくしの本心で、日本を愛する者や、  
闘争の眼を向ける者、批判する者すべてにたいして「三里塚  
闘争」を揚げて「闘争などペテン」＝「反革命」などと同様の  
レッテルをはりつけ、「せぐれ（＝殺人）」と呼んでいたのが  
のが由核派であった。もちろん、「三里塚闘争」への批判や  
疑惑を一切含蓄的・封殺するのではなく、固体・  
液体から「三里塚闘争」なるものの本質を眞透され、批判  
を極度に恐れながら何ひとつ反論するにこなせない（反論  
の余地などはない）からだ。）といつ由核派のどうづまりの姿を  
目に見識したものでしかなかった。

この学生自治の様子を褒め、そのすべてではないのか。なぜ  
なうばー、これの結果をもつたつひとがするすべての者にたゞし  
て「三重県のなつ〇〇は（あわふは△△・××は）ペテン」  
「反革命」と烙印し、隣校はく次々と脅迫と暴行をくりか  
えしてこれがのが中核派なのだからである。こゝにそのよ  
うな「恐怖政治」のもので、とにかく、様々な意見があり、競合し  
あつたのは当然だ。「反禪牙聲明」とこゝよりつた学生自治委  
員会が存在したからだらうか。いやむつろそのもじで学生自治  
活動はすべて遙からず寧思させられてしまつたのは大いに思ひの外  
りも明らかではないが。

だが諸君、筆之こもみより。中核派の「三里塚闘争」を批判している——ただしこだけの理由でまたしてもヨリナガウからした中核派の無理られた凶手、これにかつて打撃を加えられた壊されごとくのがいつたいなぐであるのかを。それはただに政経両ヒコウ一グループとの活動のせではない。われわ

中核派は10・19暴動をおしゃくとした欺骗的だ「反韓抗署名」を島学友に譲り受けし「学生自治委員会」などと驕張したてた。だがいつたに恒と「歩れ」と云うのか。中核派の流血支配が? それこそ生を走りとした学生自治を内側から破壊し根だらしにする以外のなにもうござらないのがである。

勧業自由の根柢だとして、官局一府警  
——の先導役の正体をあらわにして、田畠派

「だが問題はそれとどうも違う。出稼旅はこの日の出稼旅  
を、10・19事件後の京都府警の常勤体制のまゝただなかで

それも意に介することなく進行したのではなかつたか。これ  
は、そのうちほゞ進行によくびでもけつして必ずからず逮捕す  
れたりすゆいヒヂはこゝへ駆逐權力との間柄に横を親し人  
でこる者ののがなしきといふべきはなかつたが。そしてまた、日  
本から「せん撃」（=殺し）や「アーラ」（=大つけ）を声  
高に叫んだてる中核派が、この日の薬行において凶器とした  
武装車輛・石・竹竿などを手を引つて教養部構内に運び入れ  
えたといふ一見奇妙なこの事実、これこそは中核派にたりす

大学版 国家総動員体制づくり、  
のための学生自治圧殺攻撃



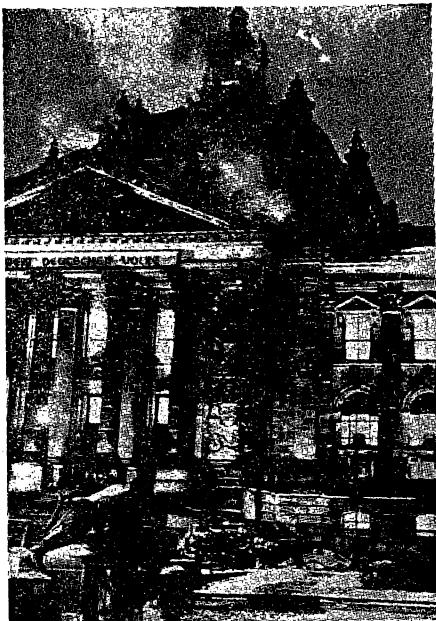
## 学生自治破壊・反戦闘争破壊の正当化のためのナセ「論理」

一れかの理由からして、現実に「三里塚闘争」がいの闘いが日帝・中農根政権の諸攻撃に反対してたえず労働者学生人民のなかから生みだされているのであり、ほんに反戦・反安保を掲げて、わが同盟を先頭にして労働者学生人民の田結して闘いは確固として推進されているのだ。

ところが、この「くめたりまえの事態にたいして、彼は可「三里塚をとりあげないのはペテン」などと叫び、あわててかざつした闘いの想い手を「反革命」と烙印し、なんど「せん殺」（=殺し）を叫んでいるのである。にしかに、「三里塚」と唯一の反権力の砦」として中核派の頭の中に成立しつづけるデマグギーの虚偽性を日々現実に照らしだしているのが、「三里塚闘争をとりあげない」無数の労働者人民の闘いであり、「三里塚のみ」が唯一のこれの延命の場である中核派にとって、それが己れの利害をそなつものとし映じるのは事実だ。かくってなにひとつ反論する根拠など持ら合わせてこない彼らは、自己の延命のためには「三里塚闘争」がいの闘いをいただいたすり暴効的に破壊する二に奔走せざるをえないのだ。その端的な表現が「反革命はせん殺あるのみだ」という絶対なのである。

### 中農根政権の治安弾圧の強化を ト支えする中核派の蛮行

だが学友諸君、「三里塚」を口実とした中核派の暴力的攻撃と破壊の眞偽がないか。中農根の軍事大國化の攻撃が急ピッチにがしすすめつけてくる今日、この時に、彼ら



9・19自民党放火は、一二のナチスの国会放火と同じ謀略だ。

1933年2月27日夜のドイツ国会議事堂の炎上。この事件がます共産党弾圧、ついであらゆる反ナチ分子の弾圧からナチ独裁確立に至る口火となった。

## 京学生自治の戦闘的蘇生を! 反戦闘争の爆発をかちとろう!



10・21 国際反戦デーに決起した労働者・学生

は「三里塚闘争」を支持しない、このことをもって無数の労働者人民の闘いを根柢やしにしないことをあからさまに宣言してこられた。むろん「三里塚」は唯一の反権力の砦、「三里塚に敵対する者は反革命であり、せん殺あるのみだ」という中核派の論理なりといふ論理が、彼らによる闘争は、日本型ネオ・ファシズム体制づくりの終仕上げのために治安弾圧体制を強化し、いつぞこの反戦・平和運動を根柢やしにしようとしている。一方では反戦の課題をおしゃかくして「三里塚闘争」なるものにすりかえ、労働者學生人民の田結した闘いとは無縁な「火つけ」を賛美する、他方では学生自治の破壊とあらゆる反戦・平和の闘いの破壊に狂奔する、この中核派の言動は中農根の攻撃を下からかきえるものでなくして何であつうか。むろん、「三里塚」は国家権力の走狗に転落し、ネオ・ファシズム運動の尖兵とな、中核派はひどい汚衆なのだ。

すべての学友諸君、「三里塚」を口実とした中核派の暴力支配・その現実比「論理」の反動性はいまや明白であつた。中核派の蛮行を彈劾し、中核派を活用した京学生自治運動の根絶を狙った府警・当局の自治破壊をつぶ碎くために、そ次起しよう。日本型ネオ・ファシズム体制づくり、まさに治安弾圧の醜い一学内管理強化の遂行を全農庄の田結どうち碎く。その闘いの最先頭でいが同盟京大を部屋に廻つてあつ。

# 中核派の「反権力」は国家権力との密通の煙幕だ

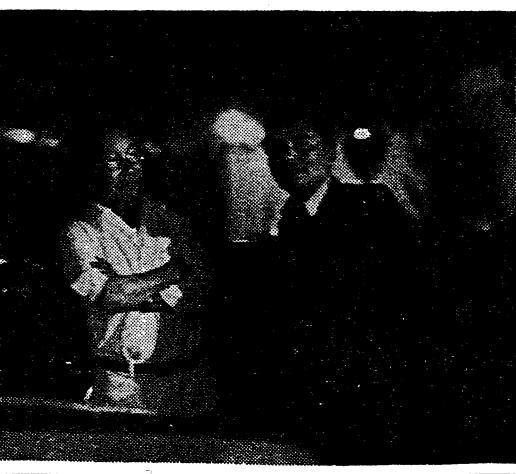
見よ！ 中核派「三里塚反対同盟」北原と警察とのユ着の証拠の数々を

中核派の「三里塚闘争」は、政府・警察権力との  
談合によるものである。その証拠だ！

一九八一年五月十八日、「三里塚反対同盟」事務局長であり、中核派の幹部・同僚である  
北原鉄治は、千葉県佐原市の割烹「草平三」において千葉県警成田警察署監査課課長（当  
時）佐藤勝らと共に（密会はこれが初めてではない）し、「三里塚闘争の今後」について  
談合。——左はその「中核派對事政治」の決定的瞬間だ。

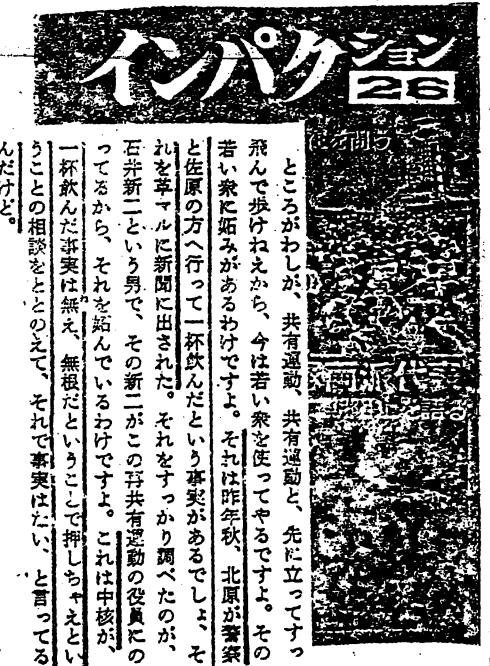


(写真上) 談合を終えて「草平三」を出る  
佐藤（前）と北原（後）



(写真下) 「草平三」の駐車場で佐藤（右）と  
談笑する北原（左）

内部証言  
當時反対同盟で北原の  
「盟友」であるた熱田  
一は「新左翼」系幹部  
ヨインパワーション曰26  
号で下のよう公報通を  
暴露してしまった。こ  
の内部証言に中核  
派は以後ターハ音も出  
せない。



しかも中核派は、革マル派がつづいて暴露した反対同盟事務局次長（当時）  
島寅征と当時の内閣官房副長官加藤松一（現防衛庁長官）との密談（  
一九八一年五月十七日）について、暴露。当時は北原問題と同様「テーマだ」と島をか  
ばいながら、反対同盟分裂（ハ三年三月）以後はその「馬鹿」を認めて対立する熱田派  
反対同盟へ攻撃材料に利用。だが、この態度のヒヨウをびりによって同時に、「北  
原密通はテーマだ」という彼らのつぱりもワンハundredで、たことを証明。二つい  
うのも「馬鹿をあらわす」といつぶんだ。

こんな中核派が「反権力」「反対性」と語るのを許せるか！

## フル字日草フル京大支

〈連絡先〉 大阪市東淀川区豊新五ー六一五 大隅 豊 06

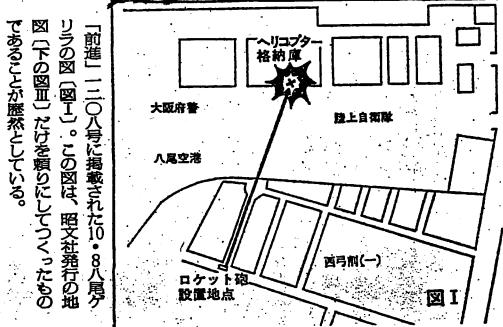
# 「アーリーアラート」を追認した中核派は標的の位置を知らぬ！ 中核派は謀略アーリーを追認するだけの権力の走狗だ！



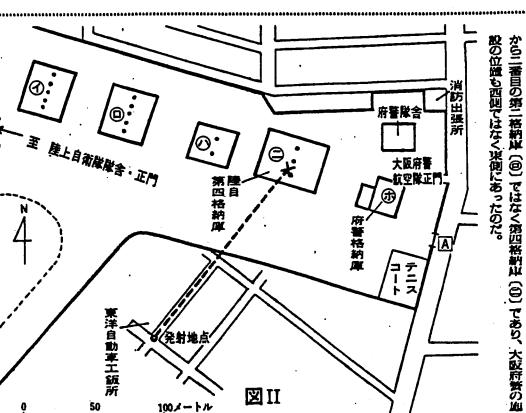
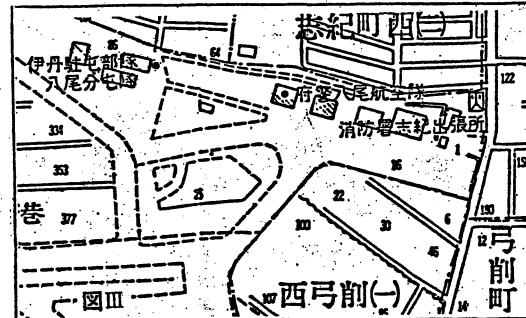
自衛隊八尾駐屯地の裏門〔図IIのA地点〕から格納庫群〔④～⑦の格納庫〕を撮ったもの。手前右側の府警の格納庫〔⑥〕とその向うの小さい建物の額に警察の紋章がついているのが難にでもわかる。

中核派は攻撃した格納庫と「ロケット砲設置地点」を図示している。(図エ)しかしと、戦闘図・なるものは「テラメキわま」ないものである。左上の写真とよく見くぼしい。敷地の一番東にある建物には警察のマークがはいつてあるではないか。まことに東端の建物こそが正規の格納庫なのである。しかしそのまますぐ東側に正門・隊舎はこれらの格納庫よりも、と田にあるのだ。(だから自衛隊へ格納庫は田から一、二、三、四、と数えられる。)

中核派がこのようにまちがえる「艦」を教えておこう。実は昭文社発行の地図をみると、一番西の建物(格納庫)に「府警八尾航空隊」とまちがって記されているのである。中核派はこの地図を正しいものと思っていたので、それより東側に門があるところから、東へ建物から「ヤ一」「ヤ二」と数えようと思うと考えたところなのだ。



〔前進〕一一〇号で撮影された10・8月月の圖(圖I)。この圖は、昭文社発行の地図(トドの圖III)だけを頼りに描いたものであることが、然としている。



十月八日に、陸上自衛隊へ尾駆地にあるオ四格納庫が「ロケット砲」なるもへで襲われた。そして中核派は「アーリー」をあづけ、「戦果」として追認した。ヘタ・スケリラ(大阪公算調査室)にじーんじーんびつた(事件)と同様に。

中核派は「10・8八尾アーリー」を「破防法攻撃と真向うから対決」した「革命的アーリー戦争」にはどと吹聴・宣伝している。だが中核派は自らの「戦果」として宣伝すればするほどおれが実行者でないことを自ら暴露してしまっていいのだ。中核派機関紙「前進」一一〇号ははしなくもそれをやがてだしてしまっていい。

中核派の追認記事へ前進一二〇号とは市販の地図を片手に机上でひねりだした作文だ。